



器量よし、性格よし

## 南東北 船形連峰 大倉川笹木沢

山川

【日時】2008年9月27日(土)～28日(日)

【メンバー】山川(L)、他1

9/27(土)8:40寒空の仙台駅ではるばる京都から到着のIさんと合流する。Iさんは、関西在住時の山仲間、当時も所属する山岳会は異なったが、岩トレや京都岳連の遭難対策訓練やジムなどで折々交流を重ねてきた。活発に西へ東へ沢をもとめて飛び回っている、元気印のIさんから、一緒に沢へ行こうとお誘いを頂き、嬉しい再会となった。

仙台駅西口10番線9:00発の仙台市営バスに揺られること1時間20分で終点定義に到着。田んぼの中にぽつねんと取り残されるんだらうという予測に反して、何やら雰囲気のある門前町に降り立った。参道の先には赴きのある五重塔まで見えている。ここで準備を完了し、沢装備のまま参道を通り抜けると、ほうぼうのお店から声がかかり、少々恥ずかしかった。ゆっくり参拝していきたいところだが、それはまたの機会にゆずり、奥に続く林道をのんびりおしゃべりしながら延々歩く。

ほどなく林道終点となり、大倉川右岸沿いの踏跡をたどる。朽ちた橋はさすがにわたる勇気がなく、その先の堰堤で左岸に渡り、矢尽沢出合のやはり朽ち果てた橋のところで踏跡からはずれ、50mほど戻って大倉川へ入渓した。水が冷たい。

釣師が先にみえているので、ゆっくり休憩を挟みながら、河原を進む。さらに堰堤をこしたあと、深い淵を伴う2段のゴルジュ。泳いでとりつければ難なく抜けられそうだが、今回泳ぐ気は全くおきない。各地で初冠雪を記録したこの土日は、初冬を思わせる寒さで、手はかじかむし、足もすでに感覚がない。しかし、はるばる東北まで来てくれたIさんが、『直登する』と言ったなら、やはりエイヤと飛び込むしかないだろう。恐る恐るIさんを振り返ると、目がぱちりとあった。『巻こうか』『そうしよう』ほっと胸をなでおろす。

2段分左岸からまいて本流に戻ると、再び平凡な溪相が続く。15:00笹木沢出合いに到着。

ここからは、登れる小滝とナメが交互に続き楽しい。滝はどれも簾状にさらさらと落ちてきて、それを縁取るブナ森の緑とあいまって、このうえなく優しい景観を作っている。こんなに気持ちのよいナメ床散策は初めてである。この曇天でこれだけ美しかったら、木漏れ日の中見上げたら、言葉を無くすだろう。また、季節を変えてこようと思った。

16:00、平坦なブナ森が続く690m付近で幕営を決める。小雨が降ってきて、あわててツェルトとタープを張り終えると、速攻で乾いた服に着替えツェルトにもぐりこむ。ああ、寒かった。昼間からずっと互いの近況や沢のあれこれをおしゃべり続けているが、途切れることがない。なつかしく夜は更けていった。



9/28(日)朝、Iさんの声にはっと気付くと5:30、寝坊である！慌てておきて仕度する。Iさんが作ってくれた、おくら入りのおいしいおじやをいただき、6:30に出発。

どこまで続くのかというほど美しいナメが続く。やがて小滝が連続しはじめる。水流のあまりの冷たさに、ホールドをにぎる手に全く力がはいらない。『もう秋だね。今年があっという間だった。』『天気は振り回されればなしたったもんね。』としみじみした気分になる。

いくつ目かの8m滝でルートをさぐる。『これは左から一步あがって、流芯を登るラインかな。』『そうだね、…思いっきり濡れるね。』『う～ん。』『…巻こうか。』『うん。』あっさり巻くことにする。右岸の階段状のふみ跡から巻いた後にはっと気付く。今のが手嶋会長のおっしゃっていた核心の滝だった。しまったと思うがもう遅い。今回は、『ブナ森で再会』がテーマ(山川の勝手な設定)だから、まあよいか…と無理に納得する。次の8m滝は右側から登る。手がかじかんで当てにならないのと、浮石があるので念のためザイルを出す。上がったところが三段鎧滝だった。さらさらと紗がかかったような見事な造詣にみとれる。最上段で念のためザイルをだした。今回は、初めて組むのでとくに慎重に行く。

そのあとは、再び平坦なナメ床が延々続き、最高のブナ森散策となった。穏やかな流れはやがて細くなり、藪もなく9:50仙台カゴの科尔あたりにでた。朝からばらばらと降ったりやんだりの雨模様だが、この登山道もまた優しい雰囲気豊かな森で、霧のためにいっそう幻想的で美しい。帰るのが惜しまれてならないが、10:50柳沢小屋着。このあとは長い長い林道歩きである。

いつでもヒッチハイクできるように乾いた服に着替えよう、と半ば冗談で言いあっていたが、絶妙のタイミングで車が一台下りてきた。ちょっと期待したのは確かだが、自分からはとてもヒッチハイクなどでせず、荷物の整理をしていると、横からIさんのくったくのない声が…。『下まで乗せてもらえますか？』この底抜けに明るく断られるとは微塵も疑わないささやかな要望を断れる人がいたら会ってみたい。へたれ営業の私にはない勇ましさに脱帽しつつ、心の中で感謝。おかげで快適に東根市街まで一直線、本当に楽をさせてもらった。乗せてくださった方とIさん、ありがとうございます。

その後さらに作並温泉までヒッチハイクしようと手を上げるIさんに、さすがに市街でヒッチは恥ずかしいと必死で交渉し、お土産にぶどうを買ったり、おそばを食べたりしながら時間をつぶし、原宿バス停14:24発の特急48ライナーで作並温泉へ。岩泉旅館でゆっくり体を解凍したのち、仙台へでて解散した。

久々の旧友との再会と東北の優しい森という素晴らしいロケーションにより、二人きりとは思えないにぎやかで愉快的な旅となりました。アドバイスを下さった皆様、ありがとうございました。

【グレード】2級

【行程】

9/27(土) 定義(11:00)～矢櫃沢出合・大倉川入溪(13:00)～笹木沢出合(15:00)～690m幕営(16:00)

9/28(日)690m幕営地点(6:30)～稜線(9:50)～柳沢小屋(10:50)

【地形図】船形山、関山峠、定義